

日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本骨粗鬆症学会

理事長 遠藤 直人

- I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。
 - a. 特に学術的に重要と考えられるもの
 - ・ 生活習慣病に起因する骨粗鬆症についてのガイドの発行
 - ・ 骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの適正使用ガイドの発行
 - ・ FLS クリニカルスタンダード（日本FFNJ学会と共同）の発刊
 - ・ 骨粗鬆症リエゾンサービス、脆弱性骨折リエゾンサービスの推進
 - b. 当該領域における国際的な役割
 - ・ 海外の骨粗鬆症関連学会と、骨粗鬆症診療および研究成果の発表を介して交流
 - c. 活動からもたらされる社会的な意義
骨粗鬆症および骨組織に関する疾病や障害についての診療、臨床及び基礎研究により、骨粗鬆症および骨粗鬆症を基盤とする脆弱性骨折が日常生活、生活の質を低下させ、ひいては生命予後も不良であり、健康寿命を阻害することを広く啓発した
新型コロナウイルス感染下における「骨粗鬆症診療と薬剤の継続の必要性」について関連学会と共同で提言を発表した
 - d. 学会運営上留意している点
医師に加え、多くの職種の方が学会員として参加していることから、骨粗鬆症診療における多職種連携を推進すること、そのための研修の場を設けること。
若い学会員を対象にした臨床研究セミナーを開催することで広く研究が推進できるように努めている
- II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。
 - ・ 日本骨代謝学会および骨粗鬆症財団と協同して、「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」の改訂作業に取り組んでいる。